

**今年は3年ぶりのスクリーン上映と、オンライン配信のハイブリッド開催！  
国際コンペティション審査委員長には女優・寺島しのぶさんが就任！**

## **SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2022(第19回) 全ラインナップ発表!!**

報道関係者各位

2004年から始まったSKIPシティ国際Dシネマ映画祭(主催:埼玉県、川口市ほか)は、デジタルシネマにフォーカスを当て、国際コンペティション、国内コンペティション(長編部門、短編部門)を中心とした“若手映像クリエイターの登竜門”として毎年開催を重ね、これまでに『死刑にいたる病』の白石和彌監督、『浅田家!』の中野量太監督、『カメラを止めるな!』の上田慎一郎監督、『さがす』の片山慎三監督など、日本映画界のトップランナーとして活躍する監督や、新作を心待ちにされる監督たちを多数輩出してきました。

本日6月15日(水)、神楽座(東京・飯田橋)にて記者発表を行い、**本年の国際コンペティション審査委員長を務める寺島しのぶさん、国内コンペティション審査委員長を務める芦澤明子さんも登壇して、ノミネート作品、特集上映をはじめとする全ラインナップを発表いたしました。**

第19回を迎える本年は、2019年以来3年ぶりのスクリーン上映と、好評をいただいたオンライン配信を併用したハイブリッド方式で、来る7月16日(土)より、埼玉県川口市のSKIPシティをメイン会場に開催いたします。

今年のSKIPシティ国際Dシネマ映画祭のオープニングは、本映画祭で初めて3年連続ノミネート、3年連続受賞を果たした磯部鉄平監督の最新作『世界の始まりはいつも君と』のワールド・プレミアで幕を開けます。

**本映画祭のメインである“コンペティション”には、すべて日本初上映の24作品がノミネート!**

国際コンペティションには、99の国・地域から応募された775本から厳選した10作品がノミネートとなりました。フランス、アメリカ、スウェーデン、デンマーク、ヨルダン、ボリビア、そして日本など、世界各国の新鋭監督が見つめた世界の“いま”が映し出された、珠玉のラインナップ! コメディ、戦争映画、人間ドラマ、クライム・ドラマなどジャンルも様々に、個人の尊厳やアイデンティティ、ジェンダー、家族との絆など、言語や文化の違いを超え、現代社会を生きるすべての私たちに繋がる物語が紡がれています。審査委員長を務める寺島しのぶさんをはじめとする審査員が、果たしてどの作品にグランプリを贈るのかも注目です。

国内コンペティションでは、日本映画界の未来を担う、若手映像クリエイターが果敢に表現の可能性に挑んだ、長編6作品、短編8作品がノミネート。黒沢清監督、深田晃司監督など数々の映画監督とタッグを組み、映画撮影の第一人者として尊敬を集める芦澤明子さんが審査委員長を務めます。

さらに今年は2つの特集企画を開催!ひとつは、『チャリティ上映「ウクライナに寄せて」』と題し、過去に本映画祭でノミネートした、日本では劇場未公開のウクライナ作品2本をリバイバル上映!本特集の収益は、深刻な人道危機の只中にあるウクライナの人々への支援に役立てるため、日本赤十字社を通じて全額寄付いたします。

もうひとつは、過去の本映画祭にノミネートした監督の最新作2本を劇場公開に先駆けてワールド・プレミアで上映する『What's New~飛翔する監督たち~』。どちらの特集も、世界各国の若手監督を発掘・紹介してきたSKIPシティ国際Dシネマ映画祭ならではの特集です。

詳細は次ページ以降の通りです。本年も映画の未来を担う、新たな才能の発掘に取り組んでまいります。ぜひ貴媒体にて本情報をご紹介くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



## オープニング上映

### 本映画祭3年連続ノミネート&受賞の磯部鉄平監督最新作 『世界の始まりはいつも君と』をワールド・プレミア!

3年ぶりの通常開催を迎える今年のオープニングは、2018年『予定は未定』、2019年『ミは未来のミ』、2020年『コーンフレーク』と、本映画祭で3年連続の受賞を果たした磯部鉄平監督が最新作『世界の始まりはいつも君と』で凱旋! 2010年の初演以来10年以上再演を続ける麻草郁原作の人気舞台を映画化した本作は、パラレルワールドで展開する、女子高生たちの生死を懸けた青春群像劇。手島実優、根矢涼香、倉嶋かれん、辻凪子、栗生みな、工藤綾乃、村田奈津樹といった期待の若手女優が勢ぞろいしたことも注目の本作をワールド・プレミアで上映します。



©Carmina

## チャリティ上映「ウクライナに寄せて」

### 『この雨は止まない』『ラブ・ミー』

#### 過去に本映画祭にノミネートしたウクライナ映画2作品をリバイバル上映!

これまでも世界中の作品を上映してきた本映画祭。今回は、過去の国際コンペティションに選出されたウクライナ映画2作品をリバイバル上映し、その収益をウクライナへの人道支援に役立てるため日本赤十字社を通じて寄付いたします。『この雨は止まない』はシリアから難民としてウクライナ東部に渡ってきたクルド人青年を追ったドキュメンタリー、『ラブ・ミー』は首都キーウを舞台に、トルコ人男性とウクライナ人女性の出会いと別れを描いたビターズweetなラブストーリー。いずれも日本では劇場未公開作品であり、ウクライナが直面する社会状況がひしひしと伝わってくる力強い作品です。映画を通じて、深刻な人道危機に置かれているウクライナへ思いを馳せながら、人道支援に御協力ください。



『この雨は止まない』©Square Eyes Film



『ラブ・ミー』

## 国際コンペティション

### すべて日本初上映の厳選10作品をノミネート! 審査委員長には寺島しのぶさんが就任!

今年の国際コンペティションは、99の国・地域から応募された775本から、厳正なる一次審査を経て10作品をノミネートしました。審査委員長には映画、TVと幅広く活躍し、日本を代表する女優のひとりである寺島しのぶさんが就任し、最終審査を経てグランプリをはじめとする各賞が決定されます。

今年は「家族」や「個人の生き方」を描いた作品が特に多く、同時に複雑さを増す現代社会が抱える問題を背景にした作品が多数ノミネートとなりました。

母を亡くした悲しみを乗り越え、父を笑顔にするためコメディアンを目指す少女を描くスウェーデン作品『コメディ・クイーン』  
アヌシー国際アニメーション映画祭で名誉功労賞を受賞したフローランス・ミアイユ監督が、戦禍で生き別れた両親を探す姉弟の凄絶な人生を、ガラスに描いた油絵で綴る『ザ・クロッシング』

彗星の衝突による世界の終焉が迫る中で、本当の家族になるために初めて共に生活する三姉妹を描く、大橋隆行監督のSF作品『とおいらいめい』

1948年のパレスチナで実際に起こった悲劇を通して、戦争の恐ろしさとアラブ社会における女性の自立を描く『ファルハ』

シングルマザーの娼婦の女性が息子を名門調理師学校に入学させるため奮闘するフランス映画『彼女の生きる道』

冷戦下の80年代、ラジオ放送に青春を懸けた若者たちのドラマ『マグネティック・ビート』

2021年のトライベッカ映画祭で最優秀新人監督賞を受賞したナナ・メンサー監督が主演も務めた、NYで生きるガーナ系アメリカ人女性のコメディ『クイーン・オブ・グローリー』

労働者階級の少年の恋の目覚めと成長を主題に、ヤングケアラーやLGBTQの子どもの問題を盛り込んで描く『揺れるとき』  
今年のサンダンス映画祭ワールドシネマ・ドラマティック部門でグランプリに当たる審査員賞を受賞した、干ばつに見舞われたポリビアの高地で生きる老夫婦の物語『UTAMA～私たちの家～』

ミッドライフ・クライシスに直面した男を主人公に、拝金主義の現代社会を痛烈に批判するデンマーク、ノルウェー合作『ワイルド・メン』。

困難な時代にあっても、果敢に映画の可能性を広げていく新鋭監督たちの意欲作10本。すべて**日本初上映**となります！



『コメディ・クイーン』  
Comedy Queen  
監督: サナ・レンケン  
スウェーデン  
©Ola Kjelbye



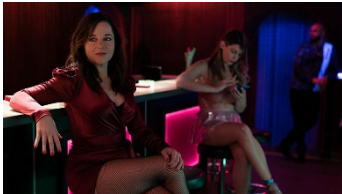
『ザ・クロッシング』  
The Crossing  
監督: フローランス・ミアイク  
フランス、ドイツ、チェコ



『とおいらいめい』  
Distant Thunder  
監督: 大橋隆行  
日本  
©ルネシネマ



『ファルハ』  
Farha  
監督: ダリン・J・サラム  
ヨルダン、スウェーデン、サウジアラビア  
©TaleBox 2021



『彼女の生きる道』  
Her Way  
監督: セシル・デュクロック  
フランス  
©Domino Films



『マグネティック・ビート』  
Magnetic Beats  
監督: ヴァンサン・マエル・カルドナ  
フランス、ドイツ



『クイーン・オブ・グローリー』  
Queen of Glory  
監督: ナナ・メンサー  
アメリカ  
©Anthony Thompson



『揺れるとき』  
Softie  
監督: サミュエル・セイス  
フランス  
©Avenue\_B



『UTAMA～私たちの家～』  
Utama  
監督: アレハンドロ・ロアイサ・グリシ  
ポリビア、ウルグアイ、フランス  
©AlmaFilms



『ワイルド・メン』  
Wild Men  
監督: トマス・ダネスコフ  
デンマーク、ノルウェー  
©Rasmus Weng Karlsen

## 国内コンペティション(長編部門、短編部門)

長編6作品、短編8作品がノミネート。

審査委員長には数々の監督とタッグを組む撮影の第一人者、芦澤明子さんが就任！

国内コンペティション長編部門には6作品がノミネート！ 今後の日本映画界に新風を吹かすであろう、監督それぞれの個性が光る力作を厳選！ 群像劇、SF、さらにマダガスカルで撮影された異色作など、バラエティ豊かなラインナップとなりました。

夏の終わり、8月31日に6人の男女が織りなす群像劇『明ける夜に』

スキルの低さに悩み、試行錯誤を繰り返す超能力者の悲哀を描く『ブルーカラーエスパーズ』

レンタル夫との疑似夫婦生活にのめり込んでいく女性の感情を、コンテンポラリーダンスに載せて綴る『ダブル・ライフ』

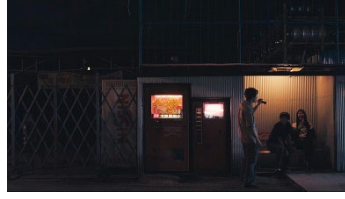
肉体から解き放たれ、意識だけの存在になることが可能となった近未来を舞台に、深遠な問いを投げかけるSF映画『Journey』

全編マダガスカルで撮影！雄大な大自然の中で、音楽と表裏一体の死生観と生命の連鎖を映し出す『ヴァタ ～箱あるいは体～』

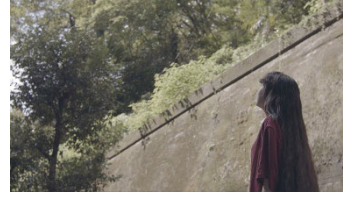
薬物依存の弟と、彼を引き取った兄が生きていることの苛酷さを見つめる重厚な人間ドラマ『命の満ち欠け』



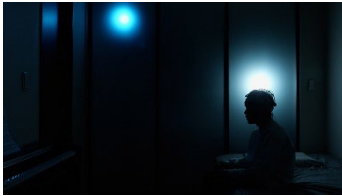
『明ける夜に』  
監督:堀内友貴  
日本  
©堀内友貴



『ブルーカラーエスパーズ』  
監督:小林大輝  
日本  
©daikikoboayashi2022



『ダブル・ライフ』  
監督:余園園  
日本、中国



『Journey』  
監督:霧生笙吾  
日本  
©霧生笙吾



『ヴァタ ~箱あるいは体~』  
監督:亀井岳  
日本、マダガスカル  
©FLYING IMAGE



『命の満ち欠け』  
監督:小関翔太、岸建太郎  
日本  
©2022 K-zone.LLC.

### 国内コンペティション短編部門には、8作品がノミネート。

コメディ、ホラー、アニメーションなどのジャンルに挑戦した野心作に、コロナ禍を描く作品など、短編という限られた時間に濃縮された、若手監督の情熱がほとばしる選りすぐりのラインナップ！

ある教師に起きた出来事をミニマルな構成で描く、短編映画の名手・吹田祐一監督の『しかし、それは起きた。』

盗作疑惑に翻弄される有名デザイナーと無名の画家の思惑がもつれ合うダーク・コメディ『似ている』

倦怠期のカップルの本音と狡猾さを描く『ウィーアーデッド』

是枝裕和監督、篠崎誠監督らが指導に当たる早稲田大学基幹理工学部の実習作品『こねこ』

巨大な魚の胃袋で暮らす豚と魚、そしておたまじゃくしの家族をアニメーションで綴る『サカナ島胃袋三腸目』

Netflixの大ヒットドラマ「返校」のハン・ニン主演！全編台湾で撮影した中西舞監督のホラー『喰之女』

コロナ禍で職も家族も失い、トランクルームで生活する男の物語『ストレージマン』

中国・杭州の美しい景色をバックに、思春期の少女と末期がんを患う中年女性の友情を描く『清風徐来』



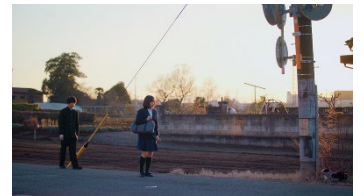
『しかし、それは起きた。』  
監督:吹田祐一  
日本  
©吹田祐一



『似ている』  
監督:木村輝一郎  
日本



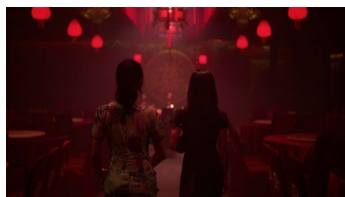
『ウィーアーデッド』  
監督:野呂悠輔  
日本  
©NOTHING PRODUCTION



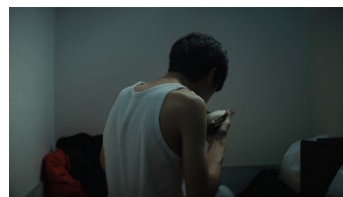
『こねこ』  
監督:山口あいり  
日本  
©映像制作実習 2021



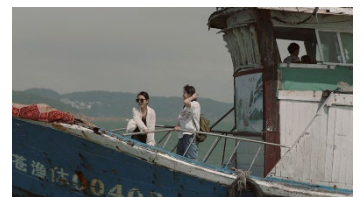
『サカナ島胃袋三腸目』  
監督:若林萌  
日本  
©2022 Moe Wakabayashi



『喰之女』  
監督:中西舞  
台湾、日本  
©SWALLOW Film Partners.



『ストレージマン』  
監督:萬野達郎  
日本  
©MANTRIX PICTURES



『清風徐来』  
監督:盧明慧  
日本

## 特集上映「What's New～飛翔する監督たち～」 過去に本映画祭ノミネート経験のある監督の最新作をワールド・プレミア！

オープニング作品『世界の始まりはいつも君と』を含む、過去の本映画祭にノミネートした監督たちによる最新作をワールド・プレミアで上映する本企画。昨年の国内コンペティションで優秀作品賞と観客賞をW受賞した萱野孝幸監督の才気溢れるごみ屋敷オフビートコメディ『断捨離パラダイス』に、真田幹也監督によるパワーアップした「ミドリムシ」シリーズ第二弾『ミドリムシの姫』。これから公開される話題作を、劇場公開に先駆けて上映！



『断捨離パラダイス』  
監督：萱野孝幸  
©断捨離パラダイス



『ミドリムシの姫』  
監督：真田幹也  
©ミドリムシフィルム

### 関連企画

#### 『世の中にたえて桜のなかりせば』追悼上映、バリアフリー上映、パパママ・シアターなど盛りだくさん！

SKIP シティ国際 D シネマ映画祭では、コンペティションや特集上映以外にも多様なプログラムを実施します。

「メイド・イン SKIP シティ」では、名優・宝田明さんがエグゼクティブ・プロデューサーを務め、遺作となった『世の中にたえて桜のなかりせば』を追悼上映。

「バリアフリー上映」では、加賀まりこさんの54年ぶり映画主演でも大きな話題を呼んだ、和島香太郎監督の『梅切らぬバカ』を日本語字幕&音声ガイド付で上映。

授乳スペースも完備し、ベビーカーのまま入場可能な「パパママ・シアター」では、内戦のシリアで母となった女性が自らにカメラを向けたドキュメンタリー『娘は戦場で生まれた』を上映。

さらに、子どもたちが制作した映像を上映する「カメラクレヨン」、埼玉県の魅力を発信する短編映画「コバトン THE ムービー」など、映像学習やインキュベートオフィスをはじめ、様々な事業を手掛ける SKIP シティならではのプログラムも充実しています。

## 主催者、国際コンペティション・国内コンペティション審査委員長 コメント

記者発表では、主催者の大野元裕実行委員会会長（埼玉県知事）、八木信忠総合プロデューサー、寺島しのぶ 国際コンペティション審査委員長、芦澤明子 国内コンペティション審査委員長、土川勉ディレクターの計5名が登壇し、映画祭開催への期待と意気込みを語りました（川口市長で実行委員会副会長の奥ノ木信夫は公務につき欠席のためビデオメッセージのみ）。コメントは以下の通りです。

### ●大野 元裕 （実行委員会会長／埼玉県知事）

過去2回にわたり、感染拡大防止のためスクリーン上映ができず残念でしたが、オンライン配信により新たなファンを獲得しました。今年はスクリーン上映とオンライン配信による「ハイブリッド」型で開催します。この2年、映画業界はコロナ禍により、厳しい状況に置かれてきましたが、今年のコンペティションにはコロナ禍以前より多い99の国と地域から935作品が寄せられ、当映画祭への期待の大きさを感じています。その中から厳選された計24本を上映・配信しますので、ご期待ください。オープニングを飾るのは、本映画祭で3年連続で受賞された磯部鉄平監督が、SKIPシティの機材を利用して制作した『世界の始まりはいつも君と』です。また、過去ノミネートされたウクライナ作品を上映・配信し、その収入をウクライナの人道支援に寄付するチャリティ上映も企画しました。これからの映画界を担うクリエイターの登竜門とも言えるこの映画祭を盛り上げていただきますよう、よろしくお願いいたします。

### ●寺島 しのぶ （国際コンペティション審査委員長／女優）

このような小さな映画祭から大きな才能が見つかって花が開いてゆくこの過程のなかで、審査委員長というのはおこがましいですが、世界各国から集まった若手監督の作品が観られることを楽しみにしています。国内部門では『シェル・コレクター』(16)で撮影をしてくださった芦澤さんと久しぶりにお会いでき、とても嬉しくて、二人で楽しく出来たらいいなと思っています。素敵な作品に出逢えることを楽しみにしています。

### ●芦澤 明子 （国内コンペティション審査委員長／撮影）

継続は力なりと申しますが、長きにわたってこの映画祭を支えていただいているスタッフ・関係者の方々に敬意を表したいと思う。3年振りのスクリーン上映ということで、作家の方々も、やはり自分の作品を作ったものなかなか観てもらえない中で、こうして一般の観客の方々に、しかも大きなスクリーンで観てもらえるというチャンスを上手に活かしていただき、多くの交流を持ってほしいです。言い方は悪いですが、この映画祭を利用し尽くし、どんどん伸びてほしい。SKIPシティに来て、好きだ嫌いだ、良いの悪いの、どんどん賑やかに喋りしていただいて、盛り上がりのある映画祭になったらいいなと思います。熱量の高い映画と出逢えることを、心より期待しています。

### ●奥ノ木 信夫 （実行委員会副会長／川口市長） ※公務につき欠席のためビデオメッセージ

SKIPシティ会場を中心とした、3年振りのスクリーン上映が復活する見込みとなり、大変楽しみにしております。川口で映画祭を開催できるようご尽力いただいた関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。ぜひ川口に来て、映画をお楽しみいただきたいと思います。映画界の次代を担っていくクリエイターの発掘と育成を今後も継続的に支援し、日本だけでなく、世界中の人たちからも厚い支持を受ける国際映画祭を目指して、本映画祭を盛り上げて参ります。

### ●八木 信忠 （映画祭総合プロデューサー）

本映画祭は、世界中の新人映画作家を発掘・育成することを目的として立ち上げたものです。いずれの部門においても未来への可能性を秘めた人材を対象としておりますので、新しい感覚にあふれた優れた作品が登場することを期待しています。どうぞ皆様、SKIPシティへのご来場、またはオンライン配信のご視聴により、日本国内や世界各国の新人映画作家たちの作品を是非ご覧いただき、彼らの未来への飛躍を後押ししていただきますよう、お願い申し上げます。

### ●土川 勉 （映画祭ディレクター）

Dシネマ映画祭は白石和彌監督、中野量太監督、上田慎一郎監督、片山慎三監督たち第一線で活躍する商業映画監督を多く輩出してきました。3年ぶりの通常開催となる今年のオープニング作品『世界の始まりはいつも君と』は本映画祭で3年連続受賞を果たした磯部鉄平監督の最新作をワールド・プレミア上映します。特集企画「What's New～飛翔する監督たち～」では、本映画祭出身の萱野孝幸監督と真田幹也監督の最新作を劇場公開に先駆けワールド・プレミア上映します。次の世代として日本映画界を牽引してもらいたいと思います。このことは『若手映像クリエイターの発掘と育成』を掲げている本映画祭にとって喜ばしく思います。国際コンペ、国内コンペ共に例年以上に粒ぞろいの作品を揃えましたので、今年はぜひ川口市の大きなスクリーンでご鑑賞ください。

#### SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2022（第19回）開催概要

- 会期：《スクリーン上映》2022年7月16日（土）～7月24日（日）  
《オンライン配信》2022年7月21日（木）10:00～7月27日（水）23:00
- 会場：SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール、多目的ホール（埼玉県川口市）、メディアセブン（埼玉県川口市）ほか
- オンライン配信：特設サイト（Powered by シネマディスカバリーズ）にて配信
- 主催：埼玉県、川口市、SKIPシティ国際映画祭実行委員会、特定非営利活動法人さいたま映像ボランティアの会
- 公式サイト：[www.skipcity-dcf.jp](http://www.skipcity-dcf.jp)

#### 【プレスパスのご案内】

期間中にノミネート作品をスクリーン上映会場およびオンラインでご鑑賞いただけるプレスパスのお申込みを本日より開始いたしました。以下 URL から使用方法・注意事項をご確認のうえぜひお申込みください。

<https://www.skipcity-dcf.jp/press/>

---

《お問合せ》SKIPシティ国際Dシネマ映画祭事務局 広報：堀切

TEL: 048-263-0818 FAX: 048-262-5635 MOBILE: 090-4228-2342 E-Mail: [horikiri@skipcity.com](mailto:horikiri@skipcity.com)